

5.7 G地域(一箕地区)

(1)地域の現状と課題

①良好な居住環境の維持・向上

G地域は、本市の中心市街地の東側に位置し、住宅地と工業地、丘陵地及び農地から構成されています。

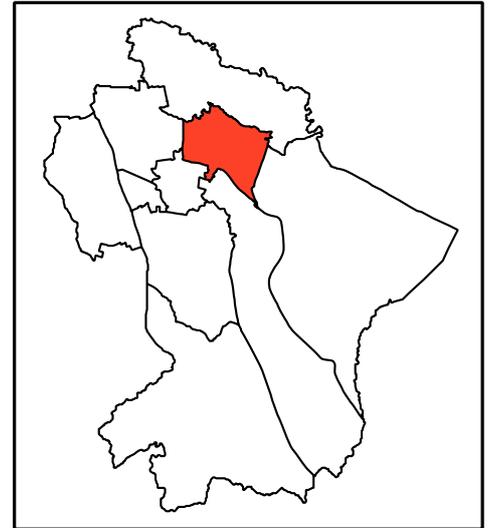
住宅地の大部分は、市街地の拡大にあわせて土地区画整理事業が進められ、基盤の整った良好な居住環境が形成されており、良好な居住環境の維持・向上が求められています。

②文教地区にふさわしいまちなみの形成

G地域には、会津大学をはじめとする各種の教育施設が集積し、文教地区となっています。

しかし、大学等の立地をまちなみに活かし切れていないため、文教地区としてのイメージが弱くなっています。

今後は、学生が地域の中を行き交う「学生のまち」をイメージできるまちなみの形成やまちなかで学生が過ごせる施設等の整備が求められています。



③玄関口にふさわしい会津若松駅周辺の空間の形成

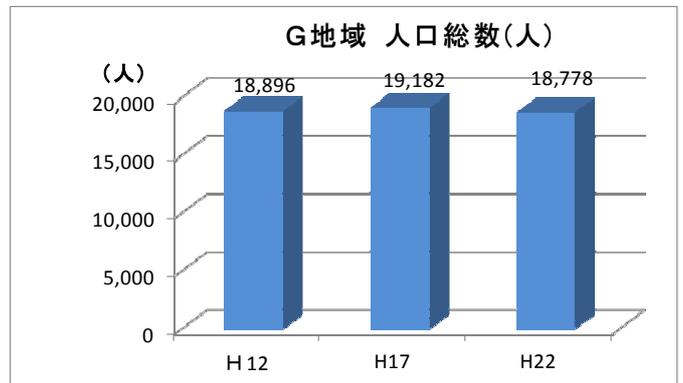
地域の西側に会津若松駅があり、会津若松ICとともに本市の玄関口となっています。

通勤通学その他、駅からは、本市の主要な観光地にアクセスすることができることから、玄関口である駅周辺に相応しい空間形成が求められています。

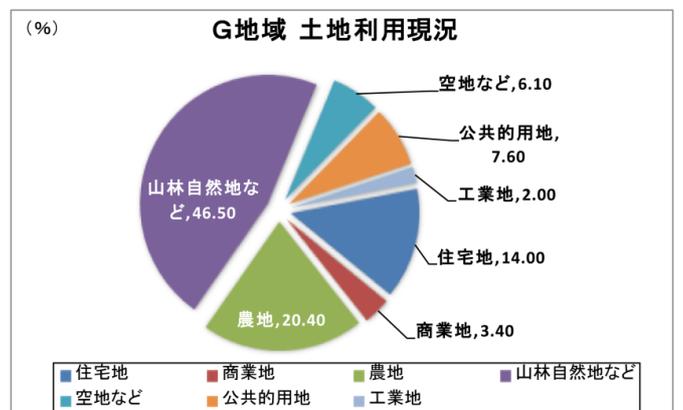
④自然環境の保全と活用

白虎隊の地として知られる飯盛山周辺は、風致地区が指定され、自然環境が保全され、歴史と自然が調和した空間となっています。

そのほか、農地や丘陵地においても豊かな自然が広がっており、本市南部の大戸地区、東山地区とともに、自然など地域の資源を活かした観光振興が求められます。



出典：国勢調査



出典：都市計画基礎調査

(2)地区別懇談会での意見

G地域は「一箕地区」から構成され、地区別懇談会では以下のご意見・ご提案をいただきました。

地区名	主な意見
一箕地区	<ul style="list-style-type: none">○会津大学、学鳳中学・高校などがあり、文教地区としてのイメージが強い。○住宅団地が整備され、新しい住宅地と歴史的資源が共存している地区である。○住宅団地は住みやすい環境となっているが、一部住宅団地では、日常生活に必要な施設等が立地していない。○子どもが遊べる公園が少ない。○豊かな自然環境に恵まれた地区である。○飯盛山、石部桜、旧街道の街並みなど多くに観光資源を有している。○高齢化や人口減少により、地域コミュニティの維持が課題となっている。○会津大学、会津若松駅周辺、飯盛山道路などの整備推進が必要である。○路線バスなどの公共交通の利便性が低く、会津若松駅の駅前広場は、十分な機能を発揮していない。

(3)地域の将来像

地域の現状と課題、いただいたご意見から、G地域のまちづくりを考える上での「キーワード」として以下のものがあげられます。

これらのキーワードを踏まえ、G地域は、会津大学や飯盛山など本市を代表する資源を活かしながら、住宅地、工業地、農地、丘陵地など、多様な土地利用や人々が暮らすまちを目指すこととし、地域の将来像を設定します。

【キーワード】

○豊かな自然環境の保全	○観光資源の活用
○地域にあった生活環境の向上	○会津大学を中心とした文教地区

【地域の将来像】

**歴史と自然を守りながら、産学連携の拠点を活かし、
多様な世代がふれあうまちをつくる**

(4)まちづくりの目標

①住・産・学の各機能が連携・調和したまちづくりを推進する

風致地区など自然の保全を基本として、豊かな自然と会津の歴史にふれながら、住・産・学の各機能が連携・調和したまちづくりを推進します。

②多様な住まいの提供による世代間交流を促進する

地域内には、会津大学をはじめ、県内初の併設型中高一貫校である会津学鳳中学校・高等学校があり、学生単身者、子育て世帯、三世帯世帯など、様々な住まいの提供を誘導し、世代間の交流を促進します。

③会津大学周辺における産学連携拠点としての機能向上を図る

会津大学、ハイテクプラザなど高度な教育・研究施設の立地を活かして、本市における各種産業との連携を図る産学連携拠点としての機能の向上を図るとともに、土地利用との整合を図りながら新たな産業の立地を推進します。

(5)地域別方針

1)都市機能の方針

- 地域のコミュニティ拠点として、公民館等の機能の充実を図り、地域のコミュニティ活動の活発化を推進します。
- 農業のブランド化や付加価値の高い地場産業の育成を支援し、地域の活力を高める取り組みを推進します。

2)土地利用の方針

- 住宅地は、低層建物を主体としたゆったり居住ゾーンとして、緑化の推進など、住み続けたいと思える良好な住環境を形成します。
- 会津若松 IC との近接性や、会津大学やハイテクプラザが立地する優位性を活かし、ITやバイオテクノロジー関連の高度先端技術などを活用した産学連携の推進や、既存公共公益施設との連携を図る産業活力ゾーンの形成を図ります。
- 会津大学周辺は、学生の暮らしを支援する施設の立地を促進し、学生のまちの形成を推進します。
- 既存の工業系市街地においては、周辺環境との調和を図りながら、産業の立地や集積を促進し、地域経済を支える活力の向上、機能の充実を図ります。
- 松長団地や居合団地については、今後の高齢化の進行を踏まえ、日常生活圏としての住環境の形成を図るため、商業機能等の生活施設の配置など、住み続けられる住宅地の形成を推進します。
- 農村集落地は、田園風景との調和を継続していくとともに、集落としての活力を将来的にも維持していくための土地利用を推進します。

3)都市施設の方針

- 事業中の土地区画整理事業について着実な整備を図り、ゆとりある良好な住環境の形成を図ります。
- 地域内交通の安全性と快適性を確保するため、歩行者と自動車が分離する人に優しい道路整備を推進します。
- 道路や公園などの都市施設の整備にあたっては、バリアフリーを基本として整備を推進します。
- 公共下水道の整備や集落における浄化槽の設置を推進し、生活環境の向上と自然環境への負荷の軽減を図ります。
- 飯盛山、石部桜など、会津の歴史や自然を活かした観光まちづくりを推進し、市内の観光資源を結ぶ観光ルートづくりを進めます。
- 既存の消融雪施設を有効に活用するとともに、地域との連携のもと、除雪の充実を図りながら、冬期間における安全な生活環境を推進します。

4)都市環境の方針

- 計画的に開発された住宅団地においては、医療・福祉を含めた生活利便施設等の誘導により、日常生活の利便性の向上を推進します。
- 快適で安全な生活環境を保全するため、生活道路の整備や、住民はじめ地域ぐるみによる防犯灯の設置などを進め、夜間でも安心して暮らせる地域づくりを推進します。
- 飯盛山周辺の風致地区など、豊かな自然環境や良好な自然景観の保全を図ります。
- 自然環境との調和を図りながら、優良な農地の保全を支援していく体制づくりを推進します。

5)都市防災の方針

- 公共施設や学校、公園などを防災施設として活用するとともに、避難路の安全対策を図りながら、災害に強いまちづくりを推進します。
- 住宅地、集落における防災性の向上を図るため、木造住宅の耐震診断の促進を図るとともに、狭小道路や行止まり道路の解消を推進しながら、新耐震基準以前に建てられた建築物を中心に耐震化を促進していきます。

■G地域(一箕地区)方針図

